

釧路スケート連盟理事長 中嶋進氏 北海道スポーツ賞の榮譽に

数多くのオリンピック選手を育成し、日本のスピードスケート界発展に多大なる貢献をされました



世界で活躍するスピードスケート選手の逸材を数多く育成してきた釧路スケート連盟中嶋理事長が今年度の北海道スポーツ賞を受賞しました。

中嶋氏は昭和37年から日本スケート界の選手として活躍すると共に、昭和46年以降は本道におけるスピードスケートの指導者として精力的に活躍されています。

現在は釧路スケート連盟理事長、北海道スケート連盟理事、日本スケート連盟理事としての重責を担い、指導者の養成と技術力の向上に大きな貢献をされています。

釧路では昭和41年の川口栄三郎氏に続く8人目の受賞となり歴代貢献者の仲間入りをしました。

釧路市スポーツ賞決定（10/22）

岡安竝宗氏（釧路柔道連盟）受賞



今年度のスポーツ賞は釧路柔道連盟会長 岡安竝宗氏に決定しました。岡安氏は釧路柔道連盟で広報部長、理事長、副会長を経る一方で、北海道柔道連盟

理事、釧路市体育協会理事・評議員、釧路学校柔道連盟副会長・会長を経て、現在は北海道教育大学釧路校柔道部OB会会長と釧路柔道連盟会長の重責を担っています。

岡安氏は昭和34年に北海道学芸大学釧路分校卒業後、勤務されたすべての小学校で柔道同好会を指導し優勝に導くなど数多くの実績を残されています。退職後も湖畔小学校や太平洋スポーツ少年団の指導に情熱を傾け、武佐中学校柔道部の指導では見事全道優勝に導くなど、柔道に対するひたむきな情熱と連盟における柔道の普及・振興に多大な功績を残されました。

釧路市長・市議会議員へ（12/21）

体育施設の補修、備品整備要請

釧路市体育協会では市内社会体育施設の補修改善・備品整備等に関して13競技団体からの要望書をまとめ、



蝦名市長と二瓶市議会議員に特段のご理解とご配慮を要請しました。

当日協会からは張江会長はじめ北村副会長、横地副会長、谷口専務理事の4名が出席し、施設設備の現況説明を行い、「①湿原の風アリーナ釧路の備品整備等について ②大規模運動公園内体育施設の整備、耐用年数切れ旧式備品の更新について ③老朽施設の早期補修について」と大きく3項目に分けて包括的に要請しました。市長は「スポーツ振興は市政の重要事項と考えているので、施設整備は勿論スポーツ施設を充実させるシステムづくりを考えたい」と回答されました。

第40回全道中学スケート・アイスホッケー競技大会 1月8日(金)～10日(日)



氷都釧路で第40回全道中学スケート・アイスホッケー大会が1月8日開幕しました。

釧路市共栄中学校で行われた開会式には全道各地から430名が集まり勝利を目指し決意を新たにしました。

3日間の主な成績では、釧路出身の女子スピード1000mで佐藤真由(釧路幣舞)が6位に入賞、フィギュアでは男子Aクラスで中村優(釧路大附属)が優勝。優勝が期待されていたアイスホッケーでは釧路鳥取、釧路西部、釧路北、釧路ユナイテッドの4チームが出場しましたが、唯一釧路北中学校が3位に入り全国大会への切符をつかみました。

全道中学スケート・アイスホッケー大会は昭和45年に第1回が帯広市で開催され、釧路市では5回目の49年が初の開催となりました。以降、開催地は施設の関係で札幌、帯広、苫小牧、釧路の4市が交替で開催する状況となり、オリンピックのように4年に1回4市で開催するローテーションで半ば固定されたような形になっています。今回は第40回大会となり釧路での開催は10回目となりました。

平成21年度全国高等学校総合体育大会開幕 「氷都くしろ」で全国の高校生がスケート・アイスホッケー競技で熱戦 全国33都道府県代表1300名の若人が開会式に 1月20日(水)～24日(日)



第59回全国高等学校スケート競技アイスホッケー競技選手権大会の開会式が20日、釧路市民文化会館で開催されました。釧路での開催は13年ぶり4度目となり、この後同市で開催される国民体育大会との同時開催は3回目となりました。

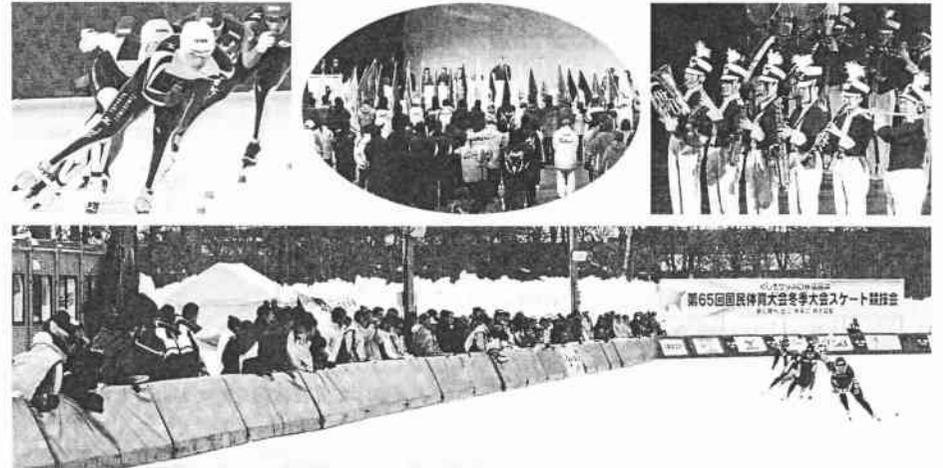
競技種目はスピードスケート、アイスホッケー、フィギュアの3競技で全国一を目指す熱い戦いが繰り広げられました。

主管校の釧路商業高校は3種目を統括し開会式の企画運営を担当。種目ごとではスピードスケートが釧路明輝高校、フィギュアスケートは釧路北陽高校、アイスホッケーは武修館高校がそれぞれの種目を担当し、大会運営に万全を期して1年間かけて準備を進めてきました。各会場では3校がそれぞれ所属連盟の競技運営に全面協力。担当の生徒、教員は全国各地から来釧している選手、役員、報道関係者に丁寧で明るく温かい対応に努めていました。



2010国体・高校総体・全道中学スケート・アイスホッケー大会特集

第65回国民体育大会冬季大会「くしろサッポロ氷雪国体」 スケート競技・アイスホッケー競技会 (1/27・28・29・30・31)



第65回国民体育大会冬季大会(くしろサッポロ氷雪国体)が全国から1700名を超える選手・役員をお迎えし、国内最大となるスポーツの祭典が実施されました。

今大会では、釧路出身のフィギュアスケート柴田嶺選手の宣誓、開閉会式を一本化したことによる皇族不在の開始式、釧路開催では初となるショートトラック種目の実施など、話題豊富な中での開催となりました。

大会期間中、フィギュア男女の優勝をかけた一戦、釧路では珍しいショートトラック競技等を目見ようという熱心な市民が会場一杯に詰めかけました。また、各会場に設置されたほっとスポットでは暖かい飲み物はじめ汁物が大変な人気で終日込み合っていました。



屋内スピードスケート場見学

釧路市体育協会初の視察研修実施 (10/28)

釧路市体育協会役員並びに加盟団体の希望者26名が帯広市に新設された屋内スピードスケート場の視察研修会を行いました。



屋内リンクを見学する参加者

スピードスケート場では帯広市教育委員会、文化スポーツ振興財団の担当者から説明を聞いた後、リンクサイドに移動。リンクは400mダブルトラックで、リンクの中央は緑のネットに囲まれフットサル3面、テニスコート6面が設置され広大な多目的広場となっていました。訪問当日は平日のためか、22年1月に開催される世界大会のにぎわいを、静かに待っている様子でした。

管内体育協会資質向上研修会

今年度から新事業開始 (11/28・29)

釧路管内連絡協議会主催による最初の「資質向上研修会」が、釧路町体育協会の主管により実施され、終始円滑に進行する中で成功裏に終了しました。



積極的に実技体験

1日目は開会式、事例発表、夜の交歓会、2日目は講演、一般救急講習、閉会式と盛りだくさんの日程。1日目の事例発表は藤川幸司氏(町アイスホッケー理事長)が、2日目の講演は東頭俊典氏(東京エミネクロスクラッシャー)がユーモアを交えて参加者に語りかけ、また、救急講習ではAEDを使っての実技研修で出席者が主体的に手を挙げて実技体験をしていました。

釧路市冬季体育祭総合開会式は道新ホールで開催

5種目(アイスホッケー・長ぐつ・カーリング・スキー・フィギュア)の選手・代表者参加

例年「交流プラザさいわい」で実施していた冬季体育祭総合開会式が今年度は道新ホールで開催されました。毎年、アイスホッケー連盟はこの開会式後に教育長杯の表彰・体育祭参加チームの組み合わせ抽選会を実施することから、アイスホッケー参加選手約200名が出席され、他の4種目と合わせて賑やかな開会式が行われております。

開会式では新しく教育長に就任された千葉誠一氏が出席され、昨年度優勝した選手より優勝杯の返還を受けレプリカを授与し、またご挨拶も頂戴いたしました。

この後、釧路スキー連盟 佐々木悠子選手が力強く選手宣誓を行い冬季種目の開幕となりました。

冬季種目の大会日程は下記の通りです。

- 1 カーリング
1/16・17(柳町スケートリンク)
- 2 アイスホッケー
12/14～1/18(釧路アリーナ・春採アリーナ)
- 3 長ぐつアイスホッケー
2/27, 3/6(春採アリーナ)
- 4 スキー
2/28(阿寒ロイヤルバレイ)
- 5 フィギュア
3/6・7(春採アリーナ)



編集後記

今年の冬は1月に全道大会、全国大会が3つも集中する異例の年になりました▼最初は全道中学スケート・アイスホッケー競技大会、続いて全国高等学校総合体育大会(インターハイ)、最後が国民体育大会冬季大会と、1月第2週から連続3週間の開催となりました▼前半2つの大会は中体連、高体連主催の大会で関係の中学校、高等学校が中心となって大会運営を担当しました。国体は釧路市で準備室を4月に設置し9ヶ月間で本番を迎えるという短期間勝負で、準備室に配属になった担当者は筆舌には尽くしがたいご苦労があったものと想像します▼この3大会の競技運営に直接携わったアイスホッケー連盟、スケート連盟にとつては1ヶ月間全く休みなく、想像を絶する体力勝負が続いたのではないかと思います▼このような厳しい条件下でありながら有終の美を飾って見事大会を終えたことは、「氷都釧路」の組織力・競技運営力を全国に示したものと確信しています▼参加者から高い評価をいただけたことで、少しでも疲れを癒すことになれば幸いです。

